

## 確かな学力と活用力の育成を目指す学習指導体制づくり －確かな知識の定着と活用力の向上を図る指導の工夫・改善－

### I はじめに

研究初年度の平成20年度から次年度の平成21年度と2年間にわたり現行学習指導要領の理念である「生きる力」を育む教育に加えて、新学習指導要領を踏まえる中で研究テーマ「確かな知識の定着と活用力の向上を図る指導の工夫・改善」を校長の立場から研究してきた。特に新学習指導要領について甲州市の各小学校では、移行期の中で充実を図る努力をしている。今回の改訂では、言語活動・理科教育・算数教育・伝統文化・道徳教育・体験活動・外国語活動などの充実が挙げられ、さらに授業時間数と学習内容の増加が図られた。今後の学校教育では、これらの内容を重点的に組み込み、子ども達の思考力、判断力などの育成について、学校全体の中でこれまで以上に焦点化して教育活動を充実していく必要があると考えた。そのためには校長として、校内研修を充実する中で、職員に学習指導要領の改善内容について十分周知していくと共に、学校経営・運営・教育課程の編成などにおいても自らがリーダーシップを発揮していくことが大切である。今年度はさらに研究を進める中で課題を明らかにして、解決への方策を探り「研究のまとめ」とした。

### II 研究の概要

#### 1 研究計画

##### (1) 1年次（平成20年度）

- ア 研究テーマの共通理解と研究内容検討
- イ 研究テーマにおける校長の関わり
- ウ 各校の「生きる力」の育成を目指した教育実践事例について

##### (2) 2年次（平成21年度）

「活用力の向上を図る指導の工夫・改善」に向けて校長としての取り組み内容を明らかにする。実践上の留意点、課題等をまとめる。

- ア 小学校13校の実践事例として内容の発表
- イ 校長の指導体制づくりへの関わりの発表
- ウ 第51次山梨県公立小中学校長会研究集会にて発表する。

#### 2 研究内容

(1) 本研究テーマにおける校長としての関わりは、概ね以下の内容であった。

- ア 新しい学習指導要領の内容の徹底
- イ 教育課程の編成

ウ 日常の授業実践

エ 「基礎的・基本的な知識技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」を図る指導体制の充実(言語環境の整備・充実・全国学力テストの結果分析と課題解決への取り組み)

(2) 2年目となる今年は、研究テーマに迫るために校長としての関わりを具体的に以下の項目を考慮に入れて焦点化し「活用力」の向上を図る指導工夫改善をいかに進めたかを、まとめ実践事例発表を行った。(以下は具体的項目事項)

ア 「学校経営力を高める」について

- ・学校経営方針を具体的に示す
- ・ビジョン達成のための組織をつくる
- ・校務分掌における適材適所の配置を工夫する
- ・指導助言を積極的に行う
- ・教職員の意識を変える
- ・学校評価を効果的に行う

イ 「教育課程の経営力を高める」について

- ・教育課程の基準及び学習指導要領を理解する
- ・教育課程編成における指導の重点をしめす
- ・教育課程実施のための諸条件を整備する
- ・教育課程の実施及び評価について
- ・教育課程を改善する

### Ⅲ 成果と課題

成果としては、今年度は昨年度からの研究をさらに深め「まとめる」年であり、その研究内容を11月25日に予定されていた第51次県公立小中学校長会研究集会で発表した。その内容は主に「活用力の向上を図る指導の工夫・改善」について、全13校の取り組みを実践事例をもとに校長としての関わり、指導工夫・改善点について提案していただき検討をしながら進めた。さらに、研究集会においてはM小学校の学校経営における実践のチェックポイント項目を代表資料として提示したが大きな評価をいただいた。

課題については、研究集会の助言者の指導内容も含めて載せておきたい。まず、子どもや地域の実態、最近の課題など自分なりの方針を踏まえる中でどういう手立てを講じるかが大切である。さらに、校長は人的加配や予算どりなど、経営基盤の整備に加え、教頭や教務主任との綿密な連携により職員全員の意志統一に努める責任がある。また、教師の考えを変え「教え込み」から「学び合い」への授業形態づくりを進めなくてはならない。加えて「確かな知識の定着と活用力の向上を図る指導の工夫・改善」は今後すぐに対応することも必要であるが、子ども達が理解し段階を踏んで知識を吸収していく(涵養)点から考えると、時間をかけて取り組むことも大切である。以上の事項について協議と指導をいただいた。

(部長 成澤宗克)